

□講義科目(専門科目)

科目名	福祉教育方法論(隔年開講、2024年度開講)	2単位
担当者	野尻 紀恵	
テーマ	福祉教育研究の動向と福祉教育実践の新潮流	
開講形態	全回ハイブリッド形式	
科目のねらい	<p><キーワード> 福祉教育研究、福祉教育原理、持続可能な社会開発教育(E S D)、リフレクション</p> <p><内容の要約> 福祉教育は、社会福祉分野と教育分野の交錯する学際的な領域である。そのため、社会福祉からのアプローチとともに、教育研究からのアプローチも必要になる。とりあげる領域は福祉教育原理論、地域を基盤とした福祉教育、学校を中心とした福祉教育、社会福祉専門教育(福祉科教育、実習教育を含む)とする。本科目の目的として次の5点をあげる。①福祉教育の概念の理解、②福祉教育実践の現状と課題の考察、③福祉教育研究の視点と方法の理解、④社会福祉の教授法の検討、⑤社会福祉政策動向における福祉教育の位置づけの検討。</p> <p><学習目標> 知識・理解: 福祉教育の概念・方法論の先行研究を通して、研究方法を身につける。 思考・判断: 福祉教育の方法や課題を学び、実践プログラムの立案ができる。 技能・表現: 福祉教育における今日的な課題、論点を学び、自らの意見を述べるができる。</p>	
授業の進め方	<p>第1回 オリエンテーション(福祉教育研究の現状と課題)</p> <p>第2回 福祉教育研究の変遷と今日的な論点</p> <p>第3回 福祉教育概念の検討と福祉教育原理論</p> <p>第4回 福祉教育実践プログラム</p> <p>第5回 福祉教育原理(岡村論文と大橋論文を読み解く)</p> <p>第6回 福祉教育原理(当事者性についての論考)</p> <p>第7回 福祉教育実践の潮流</p> <p>第8回 福祉教育実践とリフレクション(ポートフォリオ評価、自己形成評価)</p> <p>第9回 福祉教育実践の事例</p> <p>第10回 福祉教育実践の事例</p> <p>第11回 福祉教育と地域共生社会の政策動向</p> <p>第12回 改正社会福祉法と包括的支援体制の構築</p> <p>第13回 福祉教育実践プログラム提案とディスカッション①(受講生によるプレゼン)</p> <p>第14回 福祉教育実践プログラム提案とディスカッション②(受講生によるプレゼン)</p> <p>第15回 福祉教育方法論のリフレクション</p> <p>※本科目は学習内容が多岐に及ぶため、初回のオリエンテーションにて受講者の学習ニーズを踏まえ、授業展開を変更することがある。</p>	
事前学習の内容・学習上の注意	<p>毎回の授業終了時に、次回とりあげる論文や資料を配布するので読んでおく。</p> <p>福祉教育の実践を知るために、『ふくしと教育』大学図書出版のバックナンバーを読んでおくことが望ましい。</p> <p>受講生は、前半の講義を踏まえて、実践プログラムを立案して、プレゼンを行う。</p>	
本科目の関連科目	研究方法概論、ソーシャルワーク論、地域福祉論	
テキスト	日本福祉教育・ボランティア学習学会編『新機軸と学際性』大学図書出版 その他必要な論文、資料等を授業内にて提示する。	
参考文献	<p>原田正樹『共に生きること 共に学びあうこと』大学図書出版</p> <p>一番ヶ瀬康子・小川利夫他『シリーズ福祉教育・1-7』光生館</p> <p>大橋謙策『地域福祉の展開と福祉教育』全社協</p> <p>原田正樹他『福祉教育論』北往路書房</p> <p>阪野貢監修『福祉教育のすすめ』ミネルヴァ書房</p> <p>日本福祉教育・ボランティア学習学会紀要のバックナンバー</p> <p>『ふくしと教育』大学図書出版のバックナンバー</p>	
成績評価方法と基準	レポート(60点)、毎回のコメント(30点)、課題(10点)により評価し、総合評価60点以上を合格とする。	